

科目名		講 師	松山 永久	単位数	1
解 剖 生 理 学 I				時間数	30
<p>科目目的：人体の構造としくみの概要を理解し、看護に必要な知識を学ぶ。</p> <p>科目目標：骨格系、神経系(中枢と末梢)、筋系、循環器系、呼吸器系の構造及び生理機能を理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
14回	1. 構造と機能からみた人体 2. 骨 3. 中枢神経系 4. 末梢神経系 5. 筋 6. 血液 7. 血液の循環とその調整 8. 呼吸(呼吸器系)	1) 構造からみた人体 2) 機能からみた人体 3) 体液とホメオスタシス 1) 骨の構造と機能 2) 個人識別(骨の性差) 終脳・間脳・中脳・小脳・延髄・伝導路 1) 脳神経と脊髄神経 2) 神経叢(しんけいそう) 3) 交感神経と副交感神経 1) 筋の構造と機能 2) 随意筋と不随意筋 1) 血液の組成と機能 2) 血沈と凝固時間 3) 血液型と輸血 1) 心臓 2) 動脈系 3) 静脈系 4) リンパ系 5) 胎児循環 6) 血液の循環の調節 7) 代表的な循環障害 1) 呼吸器系の構造 2) 呼吸器系の機能			
評価	筆記試験 小テスト				
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 (医学書院)				
備考					

科目名		講 師	松山 永久	単位数	1
解 剖 生 理 学 II				時間数	30
<p>科目目的 : 人体の構造としくみの概要を理解し、看護に必要な知識を学ぶ。</p> <p>科目目標 : 泌尿器系、消化器、内分泌系、感覚器系、生殖器系の構造及び生理機能・人体の発生について理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
14回	1. 体液の調節と尿の生成 (泌尿器系) 2. 栄養の消化と吸収 (消化管と肝胆膵) 3. 内臓機能の調節 (内分泌系) 4. 外部環境からの防御(感覚器系) 5. 情報の受容と処理 6. 生殖・発生と老化のしくみ (生殖器系)(発生学)	1) 腎の構造 (アンギオテンシン・レニン・エリスロポエチンなど) 2) 排尿路の構造 3) 尿の生成(分泌と再吸収) 1) 消化器の構造 2) 消化器の機能 1) ホルモン(ステロイドホルモン・カテコラミンなど) 2) 内分泌器官の構造と機能 (下垂体・甲状腺・副腎・乳腺など) 1) 皮膚の構造と機能 2) 眼の構造と機能 1) 外耳・中耳・内耳 2) 眼の構造と機能 1) 男性生殖器の構造と機能 2) 女性生殖器の構造と機能 3) 受精と胎児発生 4) 体外受精 5) 老化			
評価	筆記試験 小テスト				
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学(医学書院)				
備考	人体解剖見学(系統解剖、代表的な疾患臓器の観察)				

科目名	生化学	講師	阿部 晃久	単位数	1
				時間数	15
<p>科目目的 : 生体物質の性質やその代謝を学び、生命維持の機構を学ぶ。</p> <p>科目目標 : 1. 生体は、どのような化学物質から構成されているかを理解できる。 2. それらの物質の代謝がどのように行なわれているか理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
7回	1. 生化学とは 糖質とは	1) 生体の構成 3) 代謝 5) 単糖 - 二糖 - 多糖	2) 栄養素 4) 糖質の定義 6) 血糖とは		
	2. 脂質とは	1) 脂質の定義と役割 2) 脂肪酸 - 中性脂肪 - リン脂質 - 糖脂質 - コレステロール 3) リポタンパク質			
	3. アミノ酸 - タンパク質とは	1) アミノ酸の定義 3) タンパク質の定義 - 変異 - 血液検査	2) 必須アミノ酸 - 成分分類		
	4. 酵素とは ビタミンとは	1) 酵素の定義 3) 反応量の調節方法 4) 酵素活性に必要なビタミン = 補因子 5) 水溶性 - 脂溶性 ビタミン	2) 反応 - 阻害		
	5. 糖質の代謝	1) 食食物質の体内分解・吸収 2) 解糖系 - クエン酸回路 - 電子伝達系 3) 糖新生 - グリコーゲン合成・分解 4) ペントースリン酸回路 - グルクロン回路			
	6. 脂質・アミノ酸代謝	1) 食食物質の体内分解・吸収 2) β 酸化 - ケトン体生成 - 脂肪酸生合成 3) コレステロール合成 - コレステロールを材料とした成分 4) 尿素回路 - α ケト酸代謝 - アミノ酸を材料とした成分			
	7. 核酸と遺伝	1) DNAとRNA 働きと成分 3) DNAの複製と構成	2) 成分の分解と合成 4) セントラルドグマ = 転写 → 翻訳		
評価	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 人体の構造と機能[2] 生化学 (医学書院)				
備考					

科目名	感染症学	講師	小池 直人	単位数	1
				時間数	30
<p>科目目的：病原微生物の人体に及ぼす影響を理解し、感染症と感染予防についての知識を学ぶ。</p> <p>科目目標：病原微生物と免疫機構について学び、感染症並びに感染予防について理解し実践</p>					
講義回数	学 習 内 容				
14回	<p>1. 感染症と微生物</p> <p>2. 病原性微生物の概要</p> <p>3. 主な感染症</p> <p>4. 感染予防・感染対策</p> <p>5. 免疫と感染症</p>	<p>1) 感染症の背景: 感染症の流行、新興・再興感染症</p> <p>2) 微生物: 原性微生物と非病原性、常在細菌 他</p> <p>3) 感染症とは: 感染症の三要因</p> <p>4) 感染とは: 感染の種類</p> <p>5) 感染症と看護: 看護師の役割</p> <p>付録) 感染症法、学校保健安全法(学校感染症)</p> <p>1) 細菌: 一般細菌、その他(マイコプラズマ他)</p> <p>2) ウイルス</p> <p>3) 真菌</p> <p>4) 原虫・寄生虫・その他</p> <p>1) 感染症の徴候・症状・検査法など</p> <p>2) 細菌感染症</p> <p>3) ウイルス感染症</p> <p>4) 真菌感染症</p> <p>5) その他の微生物による感染症</p> <p>6) 感染症の治療: 化学療法(抗菌薬、耐性菌)</p> <p>1) 感染症予防・対策の原則</p> <p>2) 滅菌と消毒: 各種菌法、消毒剤</p> <p>3) 感染経路別対策: 院内感染対策</p> <p>1) 免疫機構の概要</p> <p>2) 自然免疫と適応免疫</p> <p>3) 感染症における免疫応答</p> <p>4) 抗原と抗体</p> <p>5) 免疫と感染予防: ワクチン</p>			
評価	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学(医学書院)				
備考	演習: 常在菌の培養、細菌の観察ほか				

科目名	薬理学	講師	吉元 公一 他	単位数	1
				時間数	30
<p>科目目的 : 薬理と生体の相互作用を理解し、薬物療法に関する知識を学ぶ。</p> <p>科目目標 : 1. 基本的薬物の薬理作用とその適応方法・副作用を理解できる。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をする上での留意点を理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
1～2回	1. 薬理学総論	1) 薬物療法、薬理作用、薬物動態 2) 相互作用、副作用、関係法規			
3回	2. 薬理学各論	1) 抗感染症薬			
4回		2) 抗がん薬			
5回		3) 免疫治療薬			
6回		4) 抗アレルギー薬、抗炎症薬			
7回		5) 末梢神経に作用する薬物			
8回		6) 中枢神経系に作用する薬物			
9回		7) 心臓・血管系に作用する薬物			
10回		8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			
11回		9) 物質代謝に作用する薬物			
12回		10) 皮膚科用薬・眼科用薬			
13回		11) 救急医薬品・漢方薬			
14回		模擬試験・演習・総括			
評価		筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学 (医学書院)				
備考					

科目名	病理学	講師	松山 永久	単位数	1
				時間数	30
<p>科目目的： 疾病の原因や発生病理および代謝変化の原理を学ぶ。</p> <p>科目目標： 疾病の原因と病変の特徴を理解できる。</p>					
講義回数	学 習 内 容				
14回	1. 疾病の概念 2. 病因論 3. 細胞とその変化 4. 体液の異常 5. 循環障害 6. 腫瘍 7. 先天異常 8. 病理検査	1) 病気の概念 2) 疾病の分類 1) 病因(内因 原因) 1) 変性 2) 壊死 3) 萎縮 4) 老化 1) 体液の恒常性 2) 電解質異常 3) 酸塩基平衡 1) 循環の意味 2) 血行障害の分類 1) 悪性腫瘍の疫学 2) 腫瘍の意味 3) 悪性腫瘍の発生 4) 癌の治療 5) 悪性腫瘍の確定診断法 1) 原因と分類 2) 先天異常と先天奇形 3) 先天異常の診断			
評価	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 (医学書院)				
備考					